

## 令和2年度事業報告書

和順の里は、令和2年度は、新型コロナウイルス感染症への予防策を図りながら、「地域包括ケアシステムの推進」や「自立支援・重度化防止に資する質の高いサービスの実現」ということことを念頭に置き、具体的には、接遇から始まり、生活支援のための基本的な介護（食事、入浴、排泄をはじめとする介護）と、一人ひとりの入居者のよりよい生活を実現するためのベースとなるケアマネジメントの充実とケアプランの実現を図ることを目指して1年間取り組んできました。しかしながら、新型コロナウイルスに感染しないよう予防対策中心となり、入居者や家族様、職員まで多くの日常に制限のある生活を強いてしまいました。今後は感染予防と共に入居者により良い生活を提供できるような体制作りが課題となりました。

介護の基礎部分である、食事、入浴、排泄等の基本的技術については、入居者の安心・安全・安楽を常に念頭に置きながら、技術の向上を目指し、適切で確実な技術の習得を目指してきました。

### 1、継続事業（基本事業）

- ① 特別養護老人ホーム（定員100名）の経営
- ② ショートステイ（定員8名）の経営

### 2、佛教大学との共同事業

- 毎年、2大行事に佛教大学学生ボランティアの協力してもらっていましたが、本年度は新型コロナウイルス感染予防のためボランティア受け入れ中止となり、佛教大学生の現場実習のみ行いました。

### 3、入居者へのサービス

- ① 介護の基本姿勢…人権と人格の尊重。入居者は私たちより年長者であり、人生の先輩であることを忘れないようにし温かみのある丁寧な接しかたを行い、信頼関係構築に努めるようにしました。

- ② 三大介護の充実と介護の標準化

施設の入居者の重度化が進む中、食事、入浴、排泄の三大介護は、多くの入居者にとって生活していく上で、必要不可欠なものです。まずは、その三大介護がきちりなされてはじめて、その人の生活の基盤ができます。入居者一人一人に合った介護を工夫し、適切な介護方法を行うようにしました。

また、食事、入浴、排泄介助につきましては、そのサービスの質を高めるため、食事委員会、ケア委員会を中心に、入居者一人一人のより快適な生活を実現するため、入居者個々に合った食事、入浴の仕方、おむつの選び方の研究とトイレ誘導などこまめな食事、入浴、排泄の改善を行いました。

- ③ サービスの質の向上

- 入居者・家族の気持ちの把握と適切な対応

個別ケアを進めるためには、入居者・家族の気持ちを把握し、それに対して適切な対応を図ることが重要です。和順の里では、従来から意見箱の設置や苦情解決第三者委員を設置し、匿名での苦情や意見が言いやすくなるように努めてきました。今年度は、新型コロナ禍の中でも少しでも入居者と家族様が接することができるように、LINE面会、窓越し面会等を実施しました。またフロアでは写真や手紙を家族様に定期的に送り、近況報告も兼ねて情報共有に努めました。

#### ○介護の質の向上

入居者へのサービスの向上を図るため、各フロアにおいて最低月1回フロア会議を開催し、個々の利用者に対するカンファレンスを行い、より適切なケアの方法を考えるとともに、入居者により快適な生活をしていただくための取り組みをしました。

また、サービスの向上にとって最も大切なのは、サービスを行う職員の資質や構えです。いかに職員の意識を入居者本位の個別ケアに向けるか、また、入居者の尊厳を守るという気概を作り出すかということが非常に重要となります。施設としても、「介護の基本姿勢（人権と人格の尊重）」を目標に掲げて全職員に伝えました。

その他、委員会活動にも力を注ぎました。それぞれの委員会が有効に働くことによって良い循環ができるのではないかと思います。各委員会による研修を充実することで介護の質が向上するように努めてまいりました。コロナ禍により予定通りにいかない研修もありましたが、職員が考えて研修課題に取り組まれていたことは非常に介護への質向上になりました。

なお、令和元年度に活動した委員会は、食事委員会、ケア委員会、褥瘡防止委員会、リスクマネジメント委員会、感染症対策委員会、身体拘束防止委員会、研修委員会、行事委員会、地域・広報委員会、入所判定委員会、衛生委員会、口腔ケア委員会、看取り委員会、防災対策委員会です。

#### 《委員会実施状況》

| 委員会名         | 内容  | 実施回数 |
|--------------|---|------|
| 研修委員会        | 入居者へのサービス向上に資するため、職員の職業哲学の確立や知識・技能の獲得を目指し、各種研修を企画実行し、職員個々のキャリアアップをも図る                                       | 6回   |
| 行事委員会        | 入居者の生活に潤いをもたらす、家族等にも参加し、楽しんで頂くための行事を企画し、各部署の協力を得て実行する。（さくら祭り、秋祭り等）  | 8回   |
| リスクマネジメント委員会 | 施設内に発生する、ヒヤリ・ハットや事故の事例を集め、その内容の再検討と改善策の妥当性を検討するとともに発生防止のための対策を提案する。また、ヒヤリ・ハットや事故に対する基本的な構えを確認し、職員への意識付けを図る。 | 6回   |
| 褥瘡防止委員会      | 入居者に発生している褥瘡について現状を調査し、改善のための方策とハイリスクな入居者の褥瘡予防について提案を行う。  | 6回   |
| 感染症対策委員会     | 施設内で起こりうる各種感染症に対する予防策を検討するとともに  | 6回   |

|          |   |     |
|----------|---|-----|
|          | に、感染症の新しい情報について職員に伝える。  |     |
| ケア委員会    | 入居者へのサービスの向上を図るため、施設全体の入浴・排泄について検討するとともに、入居者個々に適した、入浴方法、排泄方法について提案する。                                     | 6回  |
| 食事委員会    | 入居者により良い食事を提供するために、日々厨房から提供されている食事について、入居者にとっての味、慶状、食べやすさ等を検討し、不適切なものについては、改善を提案し、また、入居者からの要望を厨房委託業者に伝える。 | 6回  |
| 口腔ケア委員会  | 歯科医師や歯科衛生士の指導を受けながら、入居者の口腔衛生について検討・実行する。  | 12回 |
| 地域・広報委員会 | 地域社会との協働を模索し、バザーの実施や地域掃除などを行いながら、地域連帯を推進する。また、広報を発行し、関係団体、地域、入居者家族等に配布する。                                 | 6回  |
| 身体拘束防止委員 | 虐待や拘束について、職員全体に知らせ、その防止について検討する。  | 6回  |
| 衛生委員会    | 職員の職場環境を整え、施設内の安全・衛生について検討し、改善のための提案を行う。  | 12回 |
| 入所判定委員会  | 和順の里に入所を希望し、入所申し込みをしている方々に対し、それぞれの状態を把握するとともに、入所の優先順位を協議・決定する。  | 12回 |
| 看取りケア委員会 | 尊厳ある看取りの理念、方針、目的を理解するための研修、ミーティング等を適宜開催し、看取りが適切に行われるよう職員教育を実施する。  | 6回  |
| 防災対策委員会  | 起こり得る災害に備えて、施設における予防対策や避難訓練、災害時に対応などについて検討しマニュアル作成を行う。  | 6回  |

### ○施設内研修会等の実施

| 実施月    | 研修内容                    | 参加人数 |
|--------|-------------------------|------|
| 5月     | 令和2年度事業計画・予算等説明会        | 25人  |
| 5月～9月  | 手洗い実施研修                 | 50人  |
| 7月     | 「KYT」危険予知トレーニング 4ラウンド法① | 14人  |
| 8月     | 身体拘束について事例検討            | 9人   |
| 9月     | 防災対策土砂崩れの想定対応           | 5人   |
| 10月    | 褥瘡についての基礎               | 12人  |
| 11月    | 「KYT」危険予知トレーニング 4ラウンド法② | 12人  |
| 11月～3月 | ノロウイルス嘔吐物処理の実施研修        | 50人  |
| 12月    | 身体拘束予防のための課題検討シートを用いた要  | 8人   |

|        |                      |     |
|--------|----------------------|-----|
|        | 因分析と改善策の検討           |     |
| 12月～3月 | 新型コロナウイルス感染策向上のための研修 | 50人 |
| 2月     | 高齢者虐待防止研修            | 9人  |
| 3月     | 看取りに事例検討             | 6人  |

#### ① 行事とレクリエーション

季節行事は、入居者の生活に季節感を持たせ、メリハリをつける重要なものです。また、入居者の家族にとって、行事は職員や他の入居者、家族と触れ合え楽しめる大切な機会です。しかし、令和2年度は春、秋の全体行事（さくら祭り、秋祭り）は開催しましたが感染予防の観点から家族様の参加を見合わせてもらいました。買い物レクなどフロアで行っていた外出レクリエーションも感染予防のため行うことが困難なため個別に施設近辺を散歩したり、外気浴にて気分転換を図りました。

#### ② 医療・看護

看護職員について、令和2年度も5名の看護職員が在籍し、安定した看護体制をとることができました。毎日、ほぼ各フロアに1名の担当看護職員設置、一部介護への協力を行い、介護職員不足の一部を補ってくれました。また新型コロナウイルス感染症による対応について医療面から考え、随時臨時感染委員会を開き新型コロナウイルス感染症に関する対応を指示してくれました。

また、医師に関しては、従来通り週2回2時間の回診ですが、看護体制の充実により、医師の回診も非常にスムーズに行えております。

#### ③ 機能訓練の充実に向けて

リハビリテーションの充実を図ることを目指して、専門の機能訓練指導員が在籍して入居者一人ひとりに対し機能訓練計画を立て、実施・モニタリングを行い、リハビリテーションの体制が整ってきました。コロナ禍の中でも施設内での機能訓練維持のため、体操や歩行訓練・拘縮予防を行ってくれました。

#### ④ 食の充実

和順の里では、「食べることは、入居者にとって生活の中で最も楽しみなことの一つであり、おいしい食事が提供されるか否かは入居者にとって大きな問題である」と考え、常に入居者、職員の意見を確かめながら、その人の食べやすい形の食事を提供してきました。

また、旬のものを食べる季節料理や行事食は、目を楽しませ、新たな感動を与えます。特別な食事には多くの労力と知恵が必要ですが、メニューの工夫をして、おいしい旬のものを提供していきたいとの思いで、給食の委託会社とともに食の充実に努めてきました。

現在給食を委託している会社は、和順の里の要求に対してきめ細かに対応してくれ、非常に良い関係が維持できています。

コロナ禍の中でも、食の楽しみを提供するためにおやつ時にパンの訪問販売や喫茶などの催しを企画・実行してくれました。

また、入居者一人ひとりの健康の維持・向上のための栄養マネジメントは、介護予防の一環として大変重要な役割を担っています。令和2年度も管理栄養士を中心に関係職

員が連携を取りながら、ケアプラン（施設サービス計画）との整合性を取りながら一人一人の入居者に対して適切な栄養マネジメントを行いました。

#### ⑤身体拘束等への適正化の推進

定期的に委員会を開催し、身体拘束についての知識を深め、研修を2回行い、身体拘束についての指針を整備するように努めました。

#### ⑥新型コロナウイルス感染症

令和2年度は、「新型コロナウイルス」について随時、臨時感染委員会を開催し、施設内感染を起こさないように、職員へ感染予防の注意喚起・要請、施設の消毒・換気の徹底を行いました。感染予防対策の甲斐もあり、今年度は当施設では陽性者を出すことなく終えることができました。

### 4、施設の体制として

#### ① 職員確保への努力と工夫

令和2年度はパートを含めて6名の介護職員の退職があり、人材紹介会社等を通じて5名の介護職員を採用しましたが正職員の数が減ってきており人材の充足には至りませんでした。インターネットを利用したり、ポスティングを行いました。が、適当な人材が見つからず、全職員には大きな負担をかけることになりました。

外国人の採用について、コロナ禍でも技能実習生への受け入れ準備をしました。来年度からの採用のため面接を実施しています。ら施設で働いてもらえるようなシステム作りを始めました。

#### ② 地域社会への働きかけ

職員が充足出来ず、地域社会への働きかける活動はできませんでした。地域への採用はポスティングや掲示にて、採用するように努めました。年2回施設の広報誌を回覧版を通じて、和順の里への理解を深めていただくように努めました。

#### ③実習生の受け入れ

令和2年度は、以下の実習生を受け入れ、指導しました。

| 実習名          | 学校名  | 人数  | 延べ日数 |
|--------------|------|-----|------|
| 社会福祉士実習（通学生） | 佛教大学 | 5人  | 105日 |
| 社会福祉士実習（通信生） | 佛教大学 | 1人  | 21日  |
| 老年看護学実習（通学生） | 佛教大学 | 33人 | 165日 |
| 合計           |      | 39人 | 271日 |

看護実習においては、コロナ禍の中でも安全を考えながら受け入れました。

学生とZOOMを利用した勉強会を行ったことは初めて試みで好評でした。

#### ④ 収入の安定と支出の適正化

施設の収入のほとんどは、介護保険からの収入と個人負担金で、他の収入はほとんど

ゼロに近いものです。収入安定のためには、稼働率の安定が必要ですが、令和2年度は、目標稼働率には至りませんでした。ショートステイも稼働率が目標より低い結果でありました。これは、新型コロナウイルス感染症により新規入居者の受け入れまでの面接調査等が困難、職員不足による入居者の安全確保のために可動率が低くなりました。また、1月より入居者の入院、退所が多くなったことも標値を下げた原因の1つに挙げられます。しかし、収入・支出ともに前年度ほぼ同じでした。

支出に関しては、感染予防用の物品支出が多くかかりましたが外部に関する支出が減りました。

#### 令和2年度 月別稼働率

##### 「介護老人福祉施設」

|      | 4月    | 5月     | 6月     | 7月     | 8月    | 9月     |
|------|-------|--------|--------|--------|-------|--------|
| 利用者数 | 2,760 | 2,831  | 2,723  | 2,943  | 2,883 | 2,800  |
| 稼働率  | 92.0% | 91.32% | 90.77% | 94.94% | 93.0% | 93.33% |

|      | 10月    | 11月    | 12月    | 1月     | 2月     | 3月     |
|------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 利用者数 | 2,801  | 2,779  | 2,871  | 2,857  | 2,805  | 2,679  |
| 稼働率  | 90.35% | 92.63% | 92.61% | 92.16% | 89.57% | 86.42% |

##### 短期（予防）入所生活介護」

|      | 4月     | 5月     | 6月     | 7月     | 8月     | 9月    |
|------|--------|--------|--------|--------|--------|-------|
| 利用者数 | 178    | 204    | 147    | 148    | 166    | 162   |
| 稼働率  | 74.17% | 82.26% | 61.25% | 59.68% | 66.94% | 67.5% |

|      | 10月    | 11月    | 12月    | 1月    | 2月     | 3月     |
|------|--------|--------|--------|-------|--------|--------|
| 利用者数 | 148    | 147    | 158    | 154   | 94     | 126    |
| 稼働率  | 59.68% | 61.25% | 63.71% | 62.1% | 41.96% | 50.81% |

##### 「介護老人福祉施設+短期（予防）入所生活介護」

|      | 4月     | 5月     | 6月     | 7月     | 8月     | 9月     |
|------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 利用者数 | 2,938  | 3,035  | 2,870  | 3,091  | 3,049  | 2,962  |
| 稼働率  | 90.68% | 90.65% | 88.58% | 92.32% | 91.07% | 91.42% |

|      | 10月    | 11月    | 12月    | 1月     | 2月     | 3月     |
|------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 利用者数 | 2,949  | 2,926  | 3,029  | 3,011  | 2,602  | 2,805  |
| 稼働率  | 88.08% | 90.31% | 90.47% | 89.93% | 86.04% | 83.78% |

##### 「年間稼働率」

|              | 年間利用者数 | 年間稼働率  |
|--------------|--------|--------|
| 介護老人福祉施設     | 33,435 | 91.6%  |
| 短期（予防）入所生活介護 | 1,832  | 62.74% |
| 合計           | 35,267 | 89.46% |

## 各部署事業報告

### 介護職員

#### 【1階】

下記1～5の項目の述べる人数は令和3年3月31日現在のものである。

○在籍入居者

男性：6名

女性：12名          合計 18名      （空床1）（令和3年3月31日現在）

#### 1 移乗・移動について

独歩（バギー・歩行器含）：5名（状況により車椅子必要な時あり）

車椅子（自操）：5名

車椅子（全介助）：8名

○1階フロアの移動状況については、チルト式車いすやリクライニング対象者もなく、座位が安定している方が多かった。また独歩対象者も多く、完全独歩（見守り程度）の方も2名おられた。立位訓練や歩行訓練、車いす自操訓練を行い、可能な限り、現状維持に努めた。

#### 2 食事について

自力摂取：18名（見守り・手渡し介助含む）

一部介助：0名

全介助：0名

○年度末時点では、食事介助を要する方はおられず、手渡し介助や声掛け等にて自力摂取できているが、状態により終盤一部介助要する方は数名おられる状況であった。

○入院され退院後は、食欲減退やADL低下から介助を要することがあるも、できる限りおいしく自分で食べられるよう工夫をして対応することができた。

また、テーブルの高さや自助具など、食事に関する環境を整えることにも力を入れ、よりよい食事環境の整備に繋がり、食事意欲にもつながったかと思われる。

#### 3 排泄について

| 人数（名） | 自立 | トイレ誘導<br>（一部・全介助） | オムツ交換 | バルンカテーテル<br>留置 |
|-------|----|-------------------|-------|----------------|
| 日中    | 2  | 14                | 0     | 2              |
| 夜間    | 2  | 6                 | 8     | 2              |

※自立（声かけ・誘導にて失禁なし、排泄介助不要）

○今年度もできる限り、1日1回はトイレ誘導を行い、トイレで座位の状態での腹圧をかけ、排尿・排便が促せるようにケアに努めた。ただし、トイレ誘導自体が本人の負担になるような状態になったときはケアの見直しを行い、状態に見合ったケアに努めた。

#### 4 入浴について

一般浴：1名

リフト浴：17名

特浴：0名

今年度も特浴の対象者ゼロで、一般浴とリフト浴で対応したが、年々一般浴対象者が少なくなっている。安心して安楽に入浴できるようケアに努めた。

#### 5 看取り対応について

今年度は4名の看取り対象者が施設にて永眠された。

4ケースとも様々な背景があったが、今回は新型コロナウイルス感染が蔓延していたため、これまでのように家族との面会もできずに迎えた看取りケアであった。

中でも、ご家族が海外に居住されており、1年会えずの状態ですら急激な体調変化に伴い、看取りケアに移行するケースがあったが、入出国制限がかかっている中で調整して入国されたものの、最期を家族で看取ることができないケースがあった。看取りカンファレンスもオンラインで行い、常々LINEを使って状態報告を行うなど、これまでにないやりとりのケースであったが、家族の心情をくみ取りながら、他職種と相談しながら取り組むことができた。

#### 6 レクリエーションについて

○機能訓練指導員による午前中の体操（約30分）

○ケアワーカーによる午後のレクリエーション（約30分間：運動・手芸・塗り絵・カラオケ・外気浴等）

○不定期開催（おやつ・調理レク）

○施設行事（4月：さくら祭り、10月：秋祭り）

○季節行事（書き初めや節分等）

#### 7 まとめ

新型コロナウイルス感染拡大により、外部との交流ができず、また面会制限がある中で感染防止対策を講じながらのケアとなった1年でした。入居者にも、これまで以上に手洗い・うがい・消毒を行ってもらい、その上マスクを着用しての生活に少なからず負担を負いながらも感染防止に努めてきました。また面会が大幅に制限された1年で、会えないことによる入居者・家族の心理的ケアにも努めながら、家族とのつながりを考え、定期的に写真を送り近況報告をするなど工夫もして、家族に喜んで頂けたことは介護職員の糧となりました。

### **【2 階】**

入居者のADLについて（令和2年3月31日現在）

男性入居者 3名 女性 35名

#### 1) 移動

○車椅子の入居者が大多数を占め、そのほとんどが全介助もしくは一部介助である。寝たきりを予防し、座位中心で過ごせるよう、機能訓練指導員の助言をもとに、車椅子上でのポジショニングを実施し、離床ケアに取り組



んだ。

○車椅子自操の入居者も短距離の自操は可能であるが、移乗や立位時に一部介助・見守りが常に必要な入居者であり、転倒・転落にならないように対応しました。

○各入居者のADL状態に応じて歩行器の使用。また、車椅子では上下肢を使って自操促す（職員見守りのもと）など生活リハビリの一環として活動性を高め転倒予防と機能維持に努めた。

○車椅子は移動手段であり、椅子ではない。しかし、椅子への座り替えにより自由に動けない等の行動制限や動作時により転落事故に直結するリスクが潜んでいるため全対象として考えられないものの今後については、可能な限り車椅子は移動手段とし、椅子への座り替えを行い、下肢筋力を使う機会を増加させて機能維持を図っていく。

| 車椅子全介助 | 車椅子自操 | 歩行器 | 手引き歩行 | 独歩 | 杖歩行 |
|--------|-------|-----|-------|----|-----|
| 20名    | 12名   | 4名  | 0名    | 0名 | 2名  |

## 2) 食事

○食事内容の変更については熱発等の体調不良の場合にも速やかに対応してきた。また、体調不良時以外でも個人が変更を希望されたときも厨房と連携をとり速やかに対応した。

○心身機能のレベル低下に伴い、経口摂取の困難な状態の方も少なくなく、入居者の状態に合わせた食形態の変更や嚥下補助食品の活用、介助方法の工夫を随時検討し提供することにより、長期にわたり口から食べ味わう楽しさを感じて頂けるように努力した。

○長期に渡り介助ではなく自力摂取が維持できるように他部署と連携を図り、自助具導入や机の高さ調整、車椅子上でのポジショニングを図った。

○食の楽しみへの取り組みとして、常時馴染みのあるものや嗜好品の提供を掲げていたものの過度な人員不足の事態に陥り、食の充実化を図るのが困難であった。しかし、代理購入で対応できる範囲については、準備し馴染みのある物を提供した。

| 全介助 | 一部介助 | 自力摂取 | 経管 |
|-----|------|------|----|
| 9名  | 6名   | 13名  | 1名 |

## 3) 排泄ケア

○トイレに関しては、尿意及び便意と下肢筋力を基準とし、対象者についてはトイレ誘導を実施した。対象外の入居者については、安全面を第一優先とし、トイレ誘導ではなくパット交換で対応した。

○排便管理をするため、大多数の入居者が定期で下剤を服用している。下剤の問題点は、効きすぎると水様便となり、便漏れを誘発してしまうことである。ただ下剤の増減に結びつくだけではなく、各入居者の食事及び水分状態・便形状・を考慮して上で看護、管理栄養士と検討し、状態に応じた下剤を処方していただいている。

しかし、排便コントロールは容易な問題ではなく、日々状態変化をしていく入居者に対して適宜見直しが求められており、成果から一転して課題となるケースも多く、今後も課題である。

○排泄ケアは、毎時陰部洗浄と湿潤予防のため乾燥タオルを使用し、スキントラブル及び感染予防に努めている。

○吸収量の高いパットの使用枚数が多いためパット選定や交換時間の見直し。また、オムツやリハビリパンツサ

イズ

の見直しを行い、コスト削減に努めた。尿量の少ない入居者については、業者より裏面がナイロン素材の物は通気性がなくスキントラブルの引き金になり、適していない。尿量に応じてはいいないが通気性の高い物を使用し、

入居者のケアの質とコスト削減を比例して思案及び改善を行っている。

|    | おむつ交換 | トイレ<br>介助 | 自立 |
|----|-------|-----------|----|
| 昼間 | 10名   | 22名       | 6名 |
| 夜間 | 24名   | 8名        | 6名 |

#### 4) 入浴

○週2回以上を基本とし、体調不良などの止む得ない理由で入浴できなかった場合は、清拭で対応し、入浴可能な状態になれば本人の入浴日以外でも随時入浴していただいた。

○入浴は全身観察の機会でもあるので、皮膚状態の観察を行い、異常時については看護師へ連絡し、速やかに看護師により処置及び受診（往診を含む）を行った。

○立位が困難な入居者が増えており、2人介助が必要な場面が増えてきている。入浴は、安全安楽を第一優先と考え、各入居者のADLに合わせた入浴を提供した。

○人員不足の中で他部署との連携を図り、週2回の入浴を維持させた。

| 特殊寝台浴 | リフト浴（2人介助） | リフト浴（一部介助） |
|-------|------------|------------|
| 13名   | 6名         | 19名        |

#### 5) 行事・レクリエーション

○外出レクに関しては、コロナ渦の中で企画は困難であり、提供できなかった。行事については「さくらまつり」「あきまつり」の施設内の大きなイベントは事故なく安全に行い、入居者に楽しみを提供できました。しかし、恒例行事：納涼会、クリスマス会などの行事事に関しては人員不足のため開催は極めて困難であった。しかし、日々の業務を行う事で終えてしまうものの、限りがある時間的余裕が捻出できた際には、施設周囲の散歩や風船バレー、折り紙などを行い、気分転換を図ることができた。

#### 6) 看取り対応について

○今年度は16名（男性3名、女性13名）が永眠されました。病院での看取りが1名

○医務や生活相談員など他職種との連携を行い、ケアに努めることができましたと思います。

今後も他部署との連携・協力体制を図り、入居者及び御家族様にとってよりよい終末期を送っていただけるよう日々の観察や模索していきます。

○フロア会議で振り返りを行い、終末期ケアの改善を図っている。

7) 月間目標について。

○目標を取り組むにあたり漠然と取り組むのではなく、より具体的なケースにピックアップし取り組んでいる。今年度は「車椅子の2台同時走行」「離床時の寝具を整え、ベッド上のゴミや髪の毛を払い、清潔を保つ」「トイレ使用時は、羞恥心に配慮してカーテンを閉める。見守りが必要な方にはカーテンを少し開放し、膝掛けで覆う」「居室内の整理整頓と箆筒の上に不必要な物を置かない」「トイレ誘導時にトイレ内で待たせない。トイレの状況を確認及び職員間で連携を図りながら行う」を掲げ、フロア全体で意識して取り組み概ね改善し、不適切なケースの排除が出来た。今後もフロア間で事例に基づき目標設定を行い、実践する事でケア向上に努めて行く。

### 【3階】

【全体数】 男性入居者 7名 女性入居者 25名(入院中1名) 合計 32名  
内：退所者 5名 新規入所者 4名)

#### 【入浴別】

○個浴 4名 ○リフト浴 12名 ○特浴 15名

#### 【移動手段】

○独歩 4名 ○歩行器 2名 ○車椅子 14名

○リクライニング・チルト式車椅子 11名

#### 【年間レクリエーション】

○全体 さくらまつり・夏まつり・秋祭り・クリスマス会・敬老会・もちつき・おやつレク(おはぎ・ぼたもち・焼き芋・柏餅・かき氷・メロン・どら焼き)・パン販売・花火レク・喫茶・書初め・お茶会・七夕短冊作り・原谷弁財天・家族写真・節分・正月のお抹茶と和菓子

○ユニット別 たこ焼き・ベビーカステラ・園芸

○個別 お誕生日・足浴・おりがみ・DVD観賞・風船バレー・芋ほり・ピアノ演奏・ちぎり絵・卓球

○ボランティア なし

令和 2.3.31 現在

①サービスの質と向上(ケアプランの適正化と介護サービスの質の向上)

#### 【ケアプランの適正化】

・作成時にはアセスメントを見直し、「何を希望されているか」を後ご本人や家族様から聞き取りを行い、必要とするプラン作成に取り組みました。また新人職員にはケアプラン研修を実施、担当入居者を割り当て、施設の方針・ご家族様との関わり等指導した上で実践しました。

また他部署との連携、専門的知識等の活用はフロア職員が指導、また担当入居者の細かな対応等個別に関してはユニット職員で意見交換し、ケアプラン作成に努めました。

・全職員がケアプランの内容を理解し援助内容に沿って「よりその人らしい生活」が実現出来るようにケアを行いました。定期的にモニタリング(評価)を行いながらケアプラン通りにケアが行われているか確認しました。

・ユニットケアによる個別ケアの充実に関して、馴染みの関係や落ち着ける環境作りに努め、各利用者の生活リズムに沿った援助を行い、その時に応じた対応を考えて行っていました。また家族対応も生活相談員と連携し、

面会時以外でもご家族様から情報収集を行い、情報共有に努めました。

- ・排泄の見直しは常に行っていましたが、今回は大幅に変更を行い、入居者の負担軽減と経費削減に努めました。

## ②介護技術の向上

### 【正しい介護技術の習得と、各介護職員の技術の標準化】

- ・フロアのマニュアルに基づいて、新人職員の指導にあたりました。また施設やフロアの情報を持示し、共有を図りました。
- ・施設内研修・外部研修の参加を促し、各職員の知識や技術の向上に力を入れました。

### 【医療知識の向上】

- ・医療知識の向上という具体的な対策は実施出来なかったですが、日常生活の中で入居者の状態観察を行い、適切な対応をしていく事を個々で学んでいけたと思います。
- ・医務と連携し、業務内容の改善を行いました。

## ③行事、レクリエーション

- ・認知症対応フロアとして、レクリエーションや個別対応がもっとも大切だと考えています。また職員が楽しいものではないと入居者も楽しめないと思い、入居者も職員も楽しめる内容を考える様にしていますが、コロナ禍もあり、外出レクは充実できませんでした。しかし、全体レクや行事の際は特に楽しんで頂ける内容を検討し、実施しました。

フロア全体・ユニット単位・個別で様々なレクリエーションを企画・実施しました。

ユニット単位でも、食堂の壁に飾りを付けたり、不定期で違った作品を飾ったり、園芸もしました。普段の日常の中でレクリエーションを考え、実施するのは大変な事ですが、今後も継続していきたいと思っています。

- ・新型コロナウイルス蔓延の為、面会制限があり、ご家族との関わりの時間が取れない中、日常のご様子を心配されるご家族も多い。その為、入居者様の写真と手紙をご家族に毎月送った。ご家族様には満足して頂いているというお声もあり、継続していきたいと思っている。

## ④リスクマネジメント

- ・新規の入居者やSS利用者、また新職員が増える事で、事故のリスクも上がっていきます。職員全体が常に危険を予測し、職員間で連携を図る事で未然の事故防止に繋がっていました。また事故が起これば、事故対策委員会で振り返り、同じ事故がないよう、職員間で共有しました。
- ・同じ事故が起こった際、事故を繰り返さないようフロアで話し合い、業務改善に取り組みました。

## ⑤終末期ケアの取り組み

- ・今回5名の看取りケアを行いました。看取り対応は入居者個々で違いがあります。家族背景や既往、生活歴等々の違いで対応も変えています。本人の思い、家族の思い、職員の思いもあります。なので、どのような対応が一番なのか、どう対応すれば本人や家族は満足してくれるか、いつも悩む事は一緒ですが、一人一人看取る中でみんなが後悔しない様に対応出来たのではないかと思います。
- ・フロア会議やユニット会議では看取りの振り返りを行い、次の看取りに向けて話し合いの場を作りました。

・看取りケアプランは、ご家族様や生活相談員と連携し、プラン内容を確認し、本人に寄り添った内容で作成し、実行していきました。ケアプランでは表現しにくい気持ちの面を大事にしたいと思っているので、ご家族や本人に最期まで寄り添っていきたいと思います。

## 【生活相談員】

### ◆ 入退所の状況

令和3年3月31日現在

|        |      | 4月              | 5月       | 6月       | 7月       | 8月       | 9月       | 10月      | 11月      | 12月      | 1月       | 2月       | 3月       |          |
|--------|------|-----------------|----------|----------|----------|----------|----------|----------|----------|----------|----------|----------|----------|----------|
| 月初在所者数 | 男    | 16              | 16       | 16       | 17       | 18       | 18       | 18       | 17       | 17       | 17       | 17       | 17       |          |
|        | 女    | 77              | 77       | 77       | 77       | 77       | 77       | 74       | 77       | 78       | 78       | 75       | 73       |          |
|        | 計    | 93              | 93       | 93       | 94       | 95       | 95       | 92       | 94       | 95       | 95       | 92       | 90       |          |
| 月末在所者数 | 男    | 16              | 16       | 17       | 18       | 18       | 18       | 17       | 17       | 17       | 17       | 17       | 16       |          |
|        | 女    | 77              | 76       | 76       | 77       | 77       | 74       | 77       | 78       | 78       | 75       | 73       | 72       |          |
|        | 計    | 93              | 92       | 93       | 95       | 95       | 92       | 94       | 95       | 95       | 92       | 90       | 88       |          |
| 退所者    | 退所事由 | 長期入院            |          |          |          |          |          |          |          |          |          |          |          |          |
|        |      | 死亡<br>(施設内で看取り) | 1<br>(1) | 1<br>(0) | 2<br>(2) | 1<br>(1) | 0<br>(0) | 4<br>(4) | 2<br>(2) | 1<br>(1) | 2<br>(2) | 3<br>(3) | 4<br>(3) | 5<br>(5) |
|        |      | その他             | 0        | 0        | 0        | 0        | 0        | 0        | 0        | 0        | 0        | 0        | 0        | 0        |
|        |      | 計               | 1        | 1        | 2        | 1        | 0        | 4        | 2        | 1        | 2        | 3        | 4        | 5        |
| 入所者    | 入所事由 | 在宅              | 0        | 0        | 1        | 1        | 0        | 1        | 3        | 0        | 1        | 0        | 1        | 1        |
|        |      | 病院              | 0        | 0        | 0        | 1        | 0        | 0        | 1        | 0        | 0        | 0        | 0        | 1        |
|        |      | 介護施設            | 1        | 0        | 2        | 1        | 0        | 0        | 0        | 2        | 1        | 0        | 1        | 1        |
|        |      | 計               | 1        | 0        | 3        | 3        | 0        | 1        | 4        | 2        | 2        | 0        | 2        | 3        |

和

順の里においては施設内でのターミナルケアを平成19年度より実施している。地域包括ケアシステムの構築によ

り看取りの場が拡大し、入居者の高齢化・重度化から施設看取りのニーズは増大傾向にある。終末期の意向調査においても約9割の家族が和順で最期を迎えることを望んでおり、令和2年度退所者の約9割を施設で看取った。現行、職員体制において十全とはいいがたい状況のなか、終末期にある入居者を最期まで人としての尊厳を保つことが出来るよう全人的ケアで支えることが出来た。

■平均年齢と介護度

|      |    |       |      |    |     |
|------|----|-------|------|----|-----|
| 平均年齢 | 男性 | 86.27 | 要介護度 | 男性 | 4.0 |
|      | 女性 | 90.60 |      | 女性 | 4.3 |
|      | 総  | 89.77 |      | 総  | 4.3 |

現

在日本の平均寿命は男性：81.41歳、女性：87.45歳であるが「和順の里」入居者の高齢化はそれを超えている。在籍日数（約4.3年）は次に挙げる要介護度の重度化にも影響を及ぼしていると考えられる。

◆ 要介護度・寝たきり度・認知症レベルで観る利用者の状況

(1) 要介護度別利用者状況

|    | 要介護1 | 要介護2 | 要介護3 | 要介護4 | 要介護5 |
|----|------|------|------|------|------|
| 男性 |      |      | 3    | 15   | 4    |
| 女性 |      |      | 17   | 27   | 49   |

(2) 自立度別利用者状況

|      | 非認知症 | ランクⅠ | ランクⅡ | ランクⅢ | ランクⅣ | 計 |
|------|------|------|------|------|------|---|
| ランクJ |      |      |      |      |      |   |
| ランクA |      |      | 4    | 4    |      | 8 |

|       |  |  |    |    |    |     |
|-------|--|--|----|----|----|-----|
| ランク B |  |  | 10 | 55 | 27 | 92  |
| ランク C |  |  |    | 1  | 14 | 15  |
| 計     |  |  | 14 | 60 | 41 | 115 |

今年度も平均介護度は4.3、入居者の約9割が日常生活自立度に於いてはB.Cランク、認知症自立度に於いてもⅢ.Ⅳランクと全体的に重度化している。重度認知症に対する中核症状・周辺症状への対応や、慢性疾患の管理など日頃のケアの重要性が高くなっている。

■施設サービス計画書の作成

個別サービスに基づき、入居者の視点に立った生活支援型のケアプラン作成に努め、サービス担当者会議については下記の通り実施した。

|      |    |    |    |    |    |    |     |     |     |    |    |    |
|------|----|----|----|----|----|----|-----|-----|-----|----|----|----|
|      | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 |
| 実施回数 | 13 | 12 | 9  | 15 | 11 | 16 | 11  | 18  | 12  | 16 | 14 | 13 |

◆ 短期入所生活介護

| 月   | 実人数／人 | 延べ利用日数／日 | 平均利用日数／日 |
|-----|-------|----------|----------|
| 4月  | 14    | 183      | 13.0     |
| 5月  | 13    | 207      | 15.9     |
| 6月  | 11    | 147      | 13.3     |
| 7月  | 11    | 158      | 14.3     |
| 8月  | 12    | 166      | 13.8     |
| 9月  | 11    | 162      | 14.7     |
| 10月 | 12    | 148      | 12.3     |
| 11月 | 13    | 157      | 12.0     |
| 12月 | 9     | 158      | 17.5     |
| 1月  | 12    | 154      | 12.8     |
| 2月  | 9     | 94       | 10.4     |
| 3月  | 10    | 126      | 12.6     |
| 計   | 137   | 1860     | 13.5     |

今

( )内は予防短期

年度も相談員による事前面接の徹底、及び各支援事業者主催のサービス担当者会議への参加を通じ、利用者の在宅状況を把握した上で短期入所生活援助計画を作成することで、クオリティの高い介護サービスを提供することができた。

#### ◆ 長期入所申請状況

京

都市介護福祉施設入所ガイドラインに基づき当施設独自で細分化した点数付けを行い、毎月開催している入所判定委員会にて確認、高得点者より順次入所に繋げると云うプロセスで今年度も進めた。要介護度待機者の状況としては、要介護度3が最も多く、次いで要介護度4、要介護度5となっている。基本評価もA判定が半数以上を占める状況となっている。

### 【看護職員】

医務室の年間目標（令和3年3月31日現在）

『入居者の健康管理に努め、安心・安全・安楽な生活を他職種と共に支援する。』

#### 1、健康保時の援助を行う。

- ・慢性疾患の細やかな状態観察を行い、他職種からの情報を共有し、アセスメントする。

各入居者の既往歴を念頭に置きながら、PCからの情報収集や多職種から直接状態を聞き取ることで情報収集を行い、また看護師間で適宜送り時間の設け情報の共有を図った。

- ・異常の早期発見に努め、異常が認められた場合、本人・ご家族の希望も踏まえ、嘱託医の診察や、必要に応じて外部受診し対応する。

目標に沿って概ね実行できたと思われる。

- ・入居者の重度化が進行しており、急変の可能性が高い。心身の状態変化に応じて、医師や家族を交えてのケアを重ねる。場合によっては「看取り介護の同意書」を作成しながら他職種と共にケアに取り組む。

必要時嘱託医から家族に今後予想される状態、施設でできる対応を説明してもらい、「看取り」の同意を得た。また、入居者の状態に合わせたケアを実施できるよう、介護職や多職種に助言を行った。

- ・内服薬、外用薬、衛生材料、酸素ボンベ、VS測定器などの医療物品の管理を行う。

適切に行っていた。

- ・吸引器などの医療関係物品の定期洗浄と管理を行う。

行っていた。

- ・4月の定期診察・定期採血、10月の定期健診（胸部レントゲン、血液、尿検査）、

年2回の定期診察実施。嘱託医指示のもと採血、心電図検査を実施。又状態に応じて適宜尿検査・心電図検査を行う。

定期診察の1ヶ月程度前から準備を行い、スムーズな健診が行えるように努め、行えた。

#### 2、感染予防の取り組み。

- ・インフルエンザや肺炎球菌などの予防接種の実施。



予防接種の実施と感染予防に努め、施設内感染を起こさず経過した。

- ・常に標準予防策に準じた感染予防対策をする。

新型コロナの流行もあり、新たな感染予防策と共に行えた。

ただ、コロナ対策に関しては、未知の部分が多く、日々情報を収集するにとどまり、具体的な取り組みが遅れた部分があった。

### 3、褥瘡予防の取り組み。

- ・褥瘡発生予防に関する指針に従い、他職種と協働し適切な看護、介護を目指す。

段階をえて少しずつ適切な介護が行えるよう演習・指導を行った。

### 4、入居者の暮らしを支える為に、他部署と連携を取る。

- ・ケアプランの作成時や毎日の申し送りなどで、その人にあったケアを助言する。

看護師の視点での助言を行っていた。

- ・委員会活動に参加する。

行っていた。

### 5、自己研鑽に努める。

- ・日々進歩する医療や、看護・介護の知識・技術、諸制度などについて、積極的に情報を得たり、研修会に参加する。

リモート研修などに積極的に参加、新しい情報を得られた。

- ・ケアの専門家としての自覚・責任のある行動がとれるよう努力する。

概ね行っていた。

### 6、適宜業務内容を見直す。

- ・より安全・スムーズに業務が行えるよう検討する。

医務室内のマニュアルを見直し、円滑な業務が行えるよう努力した。

## R2年度 外来診療別 延べ受診者数

| 医療機関名         | 受診科    | 受診者数 | 医療機関名  | 受診科     | 受診者数 |
|---------------|--------|------|--------|---------|------|
| 京都民医連<br>中央病院 | 救急外来   | 26名  | 太子道診療所 | ペースメーカー | 1名   |
|               | 放射線科   | 6名   |        | 整形      | 4名   |
|               | 泌尿器科   | 1名   |        | 内科      | 0名   |
|               | 循環器科   | 1名   |        | 耳鼻科     | 0名   |
|               | PEG 交換 | 1名   |        | 外科      | 8名   |
|               | 肛門科    | 1名   |        | 泌尿器     | 0名   |
|               | 内科     | 0名   |        | 眼科      | 0名   |
|               |        |      |        |         |      |

|            |             |     |          |         |     |
|------------|-------------|-----|----------|---------|-----|
|            | MRI         | 1名  |          | 耳鼻科     | 0名  |
|            | ステント交換      | 0名  |          | 循環器     | 0名  |
|            | 脳外科         | 1名  |          | 皮膚科     | 1名  |
|            | 外科          | 1名  |          | 精神科     | 0名  |
|            | 皮膚科         | 1名  |          | 精神内科    | 0名  |
|            | 腫瘍科         | 10名 |          | 化学療法科   | 0名  |
|            | ペースメーカー     | 4名  |          | 総合内科    | 0名  |
| 市立病院       | 精神科         | 0名  | 西陣病院     | 救急外来    | 1名  |
|            | 整形          | 0名  |          | ペースメーカー | 1名  |
|            | 救急外科        | 0名  |          | 皮膚科     | 1名  |
|            | 泌尿器         | 0名  |          | 外科      | 0名  |
|            | ペースメーカー     | 0名  | 堀川病院     | 救急外来    | 0名  |
| 府立医科大学付属病院 | 精神科<br>心療内科 | 0名  |          | 外科      | 0名  |
|            | 救急外来        | 2名  | 渡辺西賀茂診療所 | 皮膚科     | 4名  |
|            | ボトックス外来     | 0名  | 宇多野病院    | 神経内科    | 2名  |
| 第二日赤病院     | ペースメーカー     | 1名  | 中村眼科     | 眼科      | 0名  |
|            | 脳外科         | 0名  | 丸太町病院    | 救急外来    | 0名  |
|            | 泌尿器         | 0名  |          | 整形外科    | 0名  |
|            | 救急外来        | 0名  |          |         | 名   |
|            | 脳神経外科       | 1名  | 三菱京都病院   | ペースメーカー | 0名  |
|            | 放射線科        | 1名  | 陶山医院     |         | 0名  |
|            |             |     |          | 合計      | 84名 |

令和2年度疾患別入院者

| 疾患種別  | 疾患名               | 入院者数 | 入院日数 |
|-------|-------------------|------|------|
| 感染症系  | 尿路感染・膀胱炎・腎盂腎炎・敗血症 | 16名  | 334日 |
|       | 肺炎（誤嚥性・細菌性）       | 6名   |      |
|       | 蜂窩織炎・             | 2名   |      |
|       | 肺膿瘍               | 1名   |      |
| 骨系    | 大腿骨骨折             | 3名   | 70日  |
| 消化器系  | 消化管出血             | 1名   | 32日  |
|       | 閉塞性黄疸             | 0名   |      |
|       | 膵炎                | 1名   |      |
| 心・血管系 | 心筋梗塞              | 1名   | 238日 |
|       | 脳梗塞               | 1名   |      |
|       | 心不全               | 4名   |      |
|       | 高血圧               | 1名   |      |
|       | 心房細動              | 1名   |      |
|       | 大動脈弁狭窄症           | 1名   |      |
|       | 肺動脈血栓閉塞症          | 1名   |      |
| 腎・尿路系 | 腎結石               | 2名   | 94日  |
|       | 総胆管結石             | 1名   |      |
|       | 尿管ステント交換          | 3名   |      |
|       | 胆管炎               | 2名   |      |
| その他   | 汎血球減少症            | 1名   | 2日   |
|       | レスパイト入院           | 0名   | 日    |
|       |                   | 名    | 日    |
|       |                   | 名    | 日    |
|       |                   | 名    | 日    |
| 癌系    | 多発性骨髄腫            | 2名   | 92日  |
| 合計    |                   | 51名  | 862日 |

## 【管理栄養士】

令和2年度 事業報告書（厨房・栄養士）

1) 食欲低下・嚥下困難・咀嚼力低下にあわせた食事形態の提供をしました。

食欲低下の方には、介護職員と共に嗜好の調査を行い、個人の嗜好にあった食品の提供や、個人にあった食器の使用により食事環境の改善に努めました。

嚥下困難・咀嚼力低下の方への食事については、行事食や松花堂弁当の時には委託業者と共同でソフト食の導入を行いました。また、日常の食事においては、栄養補助食品を組み合わせたゼリー食を提供し、確実な栄養補給に努めました。

2) 季節ごとの行事にあわせた献立作成を行いました。

季節の食材を取り入れたお弁当やお膳を提供しました。また毎月1回は松花堂弁当を使用し普段とは違った雰囲気での食事提供をしました。

|     | 行事名                  | 料理名                          |
|-----|----------------------|------------------------------|
| 4月  | お花見                  | お花見弁当                        |
| 5月  | 端午の節句                | 柏餅                           |
| 6月  | 夏越の祓え                | 水無月                          |
| 7月  | 七夕                   | 七夕膳                          |
| 9月  | 敬老会<br>秋分の日          | にぎりずし（調理員実演）<br>おはぎ          |
| 12月 | クリスマス<br>大晦日         | クリスマスバイキング<br>年越しそば          |
| 1月  | お正月<br><br>七草<br>鏡開き | おせち料理<br>祝い膳<br>七草粥<br>おぜんざい |
| 2月  | 節分                   | 巻き寿司                         |
| 3月  | 桃の節句<br>春分の日         | ひな寿司 甘酒<br>ぼたもち              |

3) 選択メニューによる個人の嗜好にあった食事の提供を行いました。

選択する楽しみのあるメニュー作りをするため、入居者からのリクエストも取り入れました。実施は委託業者の協力により、毎月1回定期的に行いました。

4) 栄養ケアマネジメントにより、入居者一人一人にあった栄養量の設定や嗜好にあった食事の提供を行いました。栄養状態の改善を行うため、個人にあった食事量の調整や栄養補助食品の提供を行いました。また他職種と連携し栄養状態の維持・改善に努めました。

5) 調理・おやつレクリエーションの実施

入居者に食事を通して季節感を味わっていただけるよう、その季節に味わうお菓子作りを行いました。食事関連のレクリエーションは目で見ると、匂いを感じる事で入居者の食べることへの意欲を引き出すきっかけ作りが行えました。

6) 食事委員会の定期的な開催により、入居者や介護職員の意見をもらうことによって、献立作成や行事食に活かす事ができ食事内容の改善を行うことができました。

7) 喫茶を開催し、全フロアの入居者を対象に、普段とは違ったおやつ時間を過ごしていただけるような、雰囲気作りを行いました。また、喫茶開催においてはボランティア（厨房勤務者）の援助により安定した人員での実施が行えました。介護職員の不足があり定期的に開催していても参加者が少ないことが多く見られ、フロアへ配膳する形で開催しました。来年度は開催方法等の検討を行い、少しでも多くの方に参加していただける機会を作っていきます。

8) 食中毒予防のための衛生管理、作業工程の見直しを行いました。

衛生管理、作業工程の見直しについては、委託業者のマニュアルに沿った管理体制の確認を行い食中毒の予防に努めました。

9) 食器の入れ替えについては、随時必要な食器を見直し入れ替えを行いました。開所当初より使用している食器も多く残っており消耗もしてきていますので、今後も必要な食器を見直し入れ替えを行っていきます。

10) 非常食の整備を行いました。施設にある非常食は十分ではないため、今後も随時購入を行い非常時に備えられるようにしていきます。

11) パンの販売の実施を行いました。パンを代行で栄養士が購入しておき、好みのパンを選んで頂きおやつ時間に提供しました。パンを好まれる方も多く楽しんで頂く事ができました。今後も継続して実施していきます。

12) 入居者総食数・ショートステイ総食数

#### 入居者総食数

|       | ふつう食  | 粗きざみ食 | きざみ食  | 超きざみ食 | ミキサ一食 | ハーフ食 | ムース食  | 注 入食 | 総数    |
|-------|-------|-------|-------|-------|-------|------|-------|------|-------|
| 入居総食数 | 14788 | 22559 | 35564 | 0     | 8365  | 885  | 15957 | 1626 | 99744 |
| 月間食数  | 1232  | 1880  | 2964  | 0     | 697   | 74   | 1330  | 136  | 8312  |

#### ショートステイ総食数

|         | ふつう食 | 粗きざみ食 | きざみ食 | 超きざみ食 | ミキサ一食 | ハーフ食 | ムース食 | 注 入食 | 総数   |
|---------|------|-------|------|-------|-------|------|------|------|------|
| ショート総食数 | 2866 | 2134  | 49   | 0     | 48    | 0    | 40   | 0    | 5137 |
| 月間食数    | 239  | 178   | 4    | 0     | 4     | 0    | 3    | 0    | 428  |

## 【機能訓練指導員】

### 令和2年度 事業報告書 機能訓練指導員

今年度は一人ひとり身体機能に応じた訓練計画とプログラムが実施できるよう努めてまいりました。生活リハビリテーションの充実を図る事に重点を置き、評価はもとより職種間の情報の共有や連携の強化に力を入れ、福祉用具を活用し、利用者個々に応じた生活レベルの中での日常生活動作を計画に取り入れ、実施する事ができました。また個別訓練では、退院後の一時的なADLの低下やリスク管理が必要な利用者様を中心に個別訓練を行ってまいりました。

### 1、個別リハビリテーションについて

様々な理由により生活リハビリや集団リハビリが困難または不十分な方に対して機能訓練指導員が直接個別リハビリテーションを行いました。

個別実施対象者

訓練プログラム内訳

|           |    |
|-----------|----|
| <b>1F</b> | 4名 |
| <b>2F</b> | 9名 |
| <b>3F</b> | 7名 |

|                | <b>1F</b> | <b>2F</b> | <b>3F</b> |
|----------------|-----------|-----------|-----------|
| <b>関節可動域訓練</b> | 2名        | 5名        | 6名        |
| <b>筋力増強訓練</b>  |           | 2名        |           |
| <b>起立・立位訓練</b> | 1名        | 5名        | 2名        |
| <b>歩行訓練</b>    | 3名        | 5名        | 4名        |
| <b>車椅子操作訓練</b> |           | 2名        |           |
| <b>マッサージ</b>   |           | 1名        |           |

(令和2年度総人数)

### 2、集団リハビリテーションについて

運動機能の維持向上、他者との交流、楽しみながら自発的に体を動かしてもらう事を目的に集団リハビリテーションとして歌に合わせた体操を実施いたしました。1階多目的ホール、2階金閣寺食堂、3階かえで食堂前の廊下で各フロア対象に、週2~3回、約30分間の体操を行いました。

(令和2年度総人数)

| <b>1階</b> | <b>2階</b> | <b>3階</b> |
|-----------|-----------|-----------|
| 24名       | 41名       | 27名       |

### 3、生活リハビリについて

生活不活発病の予防や残存機能の維持、生活レベルの維持を目的に、能力に応じて日常生活の中で行える動作

を訓練計画の中に取り入れ、介護職員の協力のもと実施いたしました。生活リハビリの充実を図る為、生活リハビリを基盤とした状態に応じた訓練計画の作成に努めました。来年度は更なる訓練内容の個別化を図り出来る事を生活の中で行って頂くように介護職員と連携を深め、意欲的で生き活きとした生活を過ごして頂けるように努力していきたいと思ひます。また、転倒事故等の予防とリスク管理にも力を入れて取り組んでいきたいと考えています。

生活リハビリテーション実施人数

|                | 1階  | 2階  | 3階  |
|----------------|-----|-----|-----|
| 座位保持           | 5名  | 9名  | 9名  |
| 立ち上がり、立位保持     | 13名 | 16名 | 13名 |
| 歩行             | 7名  | 5名  | 12名 |
| ポジショニング、シーティング | 3名  | 16名 | 15名 |
| 車椅子操作訓練        | 3名  | 5名  |     |
| 食事動作           |     | 4名  | 2名  |

(令和2年度)

## 【事務】

事業活動計算書より

和順の里の収入の約97%は介護保険事業収入及び個人からの利用料金による収入になります。収入について、令和2年度ですが、介護職員の入職者数も少なく、各フロアの介護職員人数と入所者の割合を調整しながら新規入所者の受入れを行っていました。平成31年10月から消費税改正に伴い、介護報酬単価の改正及び特定処遇改善加算が新設されました。食費・居住費については、料金が上がることになりました。また、コロナウイルス感染対策に伴い、コロナ感染ウイルス感染症緊急包括支援事業助成金の支給により、前年度より増収することになりました。

職員の入退職状況ですが、入職者ですが、介護職員2名、嘱託介護職員1名、パート介護職員2名、看護師2名、パート環境整備2名になります。退職者ですが、介護職員4名、嘱託介護職員1名、パート介護職員1名、パート看護師1名、パート環境整備2名になります。また、嘱託介護職員から正職員へ2名変更しています。人件費支出ですが、昨年度より看護師の人数が増えたことにより増加しています。事業費・事務費ですが、昨年度と同じぐらいの支出となっています。当期活動増減差額ですが、今年度は、7,674,182円と増加され、次期繰越活動増減差額は114,588,399円になりました。

収支計算書より

介護保険事業収入ですが、概ね予算通りの収入になります。人件費・事務費・事業費支出ですが、概ね予定内の支出に収めていますが、予測より残る結果となりました。当期資金収支差額合計では、予算での当期末支払資金残高は984,800円としていましたが、決算では、3,711,685円になりました。今年度の当期末支払資金残高ですが、3,711,685円増額することができ、174,266,057円になりました。

その他

社会福祉充実計画の作成を行い、正確な情報を公開できるように書類を整備しています。

以上